富士神社の祭神は木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）、配祀神は雷神（いかずちのかみ）。由緒を記した新しい石碑が建てられている。

Walk On ウォークオン

伝説と歴史の舞台を歩く

富士神社

DATA 東近江市
- 歩行距離▶約2.5km
- 歩行時間▶約45分

『雷の落ちない村』と雷封じの宮を訪ねて

夭逝の画家・三橋節子の遺作に、わが子に描き残した絵本『雷の落ちない村』がある。落雷に悩む琵琶湖畔の村で、村人と少年が雷獣を退治する愛と勇気の話だ。雷獣とは雷を呼ぶ力を持つ幻獣のこと。高島市安曇川町上小川に伝わる昔話と、東近江市今代町の〝雷封じの宮〟の話をベースに創作されたといわれている。

〝雷封じの宮〟と呼ばれる富士神社は、愛知川左岸の今代集落に静かに鎮座している。由緒によると、この集落では夏が近づくと雷の集中攻撃を受け、人畜の被害が続いていた。ある日、村を通りかかった旅の修験者は「これは雷獣の仕業。天界に棲む雷獣が、地上に降り棲みついたのであろう」と説く。修験者の指示で村人らが大きな麻の網を森に仕掛けると、夕方、激しい落雷とともに一匹の獣を捕獲する。暴れはしたもののそのうち雷を呼ぶ力を失ったのか、やがて雷雨は遠のき、その後、村では雷の被害もなくなった。村人はこの森に雷を封じ込め、そこに建てた社が現在の富士（封込）神社だという。

神社の隣にある長壽院には、雷獣のミイラがあったと伝えられているが、昭和期の火災で焼失したとか。

この集落を抜けて愛知川の河畔まで足をのばすのもいいだろう。のどかな田園風景の広がりと湖東の山々が一望に見渡せる。

今代集落の真ん中に位置する八幡神社には、東近江市保護樹木に指定されたケヤキの巨木がそびえている。樹高24m、幹周り518cm、樹齢は300年と推定され、市内の巨木の中でも最大級のものだ。春になると新葉とともに葉の付け根に淡黄緑色の小花をつける。

八幡神社のケヤキ

モデルコース

今代バス停 →7分→ 八幡神社 →3分→ 長壽院・富士神社 →7分→ 愛知川河川敷広場 →10分→ 八幡神社 →5分→ 今代バス停

※近江鉄道八日市駅から今代まで永源寺車庫行きバスで約25分
※移動時間はあくまでも目安です。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！
http://www.keibun.co.jp

"Walk on"とは
「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな"近江"という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。